

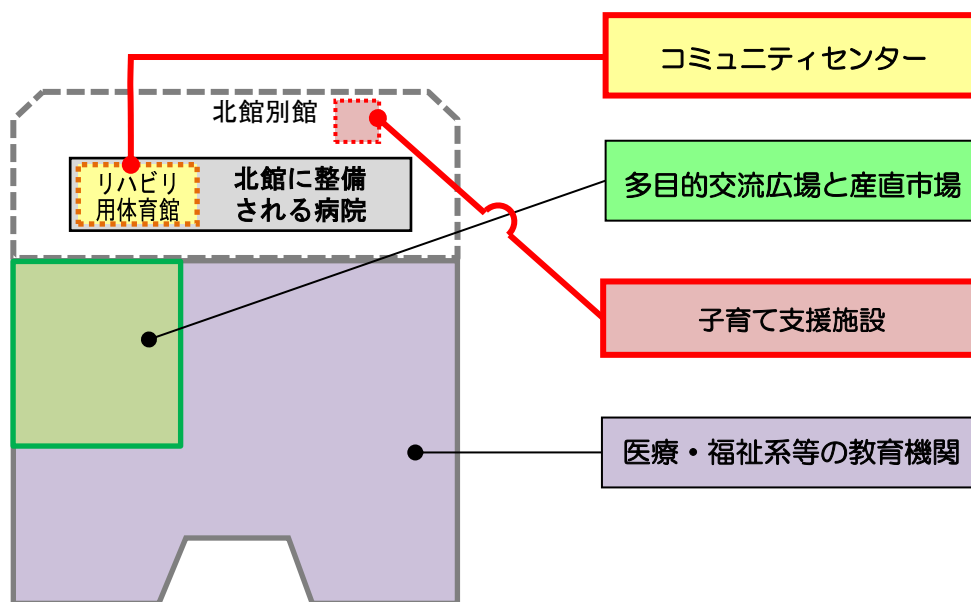
子育て支援施設の配置について

1 子育て支援施設の整備に関する前提・背景

(1) 活用方針における施設の配置

「安佐市民病院跡地の活用方針（平成 29 年 2 月）」においては、跡地に導入する施設・機能のうちコミュニティセンターを北館 2 階に、子育て支援施設を北館別館に配置することとしている。

[施設・機能の配置イメージ]



(2) コミュニティセンターの整備に向けた状況

現在、北館については、コミュニティセンターや夜間急病センターをはじめ、このたび移転が決まった安佐准看護学院等、導入する機能を踏まえ、来年度秋頃の設計完了に向けて、詳細な設計作業を進めている。

リハビリ用体育館を活用して整備するコミュニティセンターについては、ホール機能、健康増進機能及びコミュニティ機能を有する不特定多数の者が利用できる施設として、施設利用者の安全性と利便性を確保するため、各種法令等に対応するよう次の要件を満たす必要がある。

- 建築基準法に基づき、有事の際に避難路にもなる階段等の出入口を 2 か所以上確保すること。
- バリアフリー法に基づき、高齢者、身体障害者等が円滑に利用できるようエレベーター及び多機能トイレを整備すること。

このため、北館を一部増築し、エレベーター、階段及び多機能トイレ等を集約した共用部を設けることを計画している。

2 子育て支援施設の配置について

(1) 安佐准看護学院の整備に関連する新たな配置案

安佐准看護学院の北館病院2階への移転に伴い、准看護学院専用の図書室を整備することとなるが、現在も安佐市民病院の図書棟として使用されている北館別館を活用できれば、2階床面の補強工事等を行う必要がなく、北館の改修が合理的に行えることがわかった。

一方、子育て支援施設について、仮に北館病院2階のコミュニティセンターに隣接して設けるならば、コミュニティセンターの広いスペースの活用や、エレベーターや多機能トイレをコミュニティセンターと専用する形で利用できるなど、メリットが生じる可能性がある。

そこで、安佐准看護学院の図書室を北館別館に整備し、北館2階のコミュニティセンター横に子育て支援施設を配置した場合、子育て支援施設の利便性や良好な環境が確保されるかについて、施設整備に係る経費面も含めて検討した。

検討に当たっては、子育て支援施設の運営事業者へのヒアリングも行った。

(2) 子育て支援施設の配置の比較

| | 当初計画 | 変更案 |
|-------|---|--|
| 配置箇所 | 北館別館 | コミュニティセンター横 |
| 面積 | 約 285 m ² | 約 230 m ² |
| メリット | <ul style="list-style-type: none"> ・変更案に比較して面積が広い。 ・室内に柱や壁がないため、自由度の高いレイアウトが可能。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多機能トイレなどの共用が可能となり、子育て支援施設の利用者の安全性と利便性が高まる。 ・コミュニティセンターとの有機的な活用が行いやすくなる。 ・安佐准看護学院の図書室に係る補強工事が不要となるため、改修費を全体で約 4,000 万円節減できる。 |
| デメリット | <ul style="list-style-type: none"> ・北館に安佐准看護学院の図書室を確保するための大規模な補強工事が必要となる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・当初計画に比較して面積が狭く、中央部に柱と耐力壁があるため、レイアウトなどに工夫が必要である。 |

(3) 子育て支援施設の運営事業者へのヒアリング

子育て支援施設をコミュニティセンター横に配置変更した場合の運営上の課題などについて、子育て支援施設（公募型オープンスペース）を運営する複数の民間事業者にヒアリングを行ったところ、主に次のような意見であった。

- 面積的に当初計画よりも狭くなるが、子育て支援施設の運営は可能である。
- スペースの中央付近に柱や耐力壁があるが、レイアウトの工夫などにより、特段の支障にはならない。
- コミュニティセンターと隣接することにより、コミュニティセンターとの有機的な活用が可能となり、次のようなメリットが期待できるのではないかと。
 - ・コミュニティセンター利用者などとの多世代交流
 - ・広い空間を活用した親子遊びの実施
 - ・例えば、ボルタリングウォールなど、他の子育て支援施設にない遊具の設置



ボルタリングウォールのイメージ

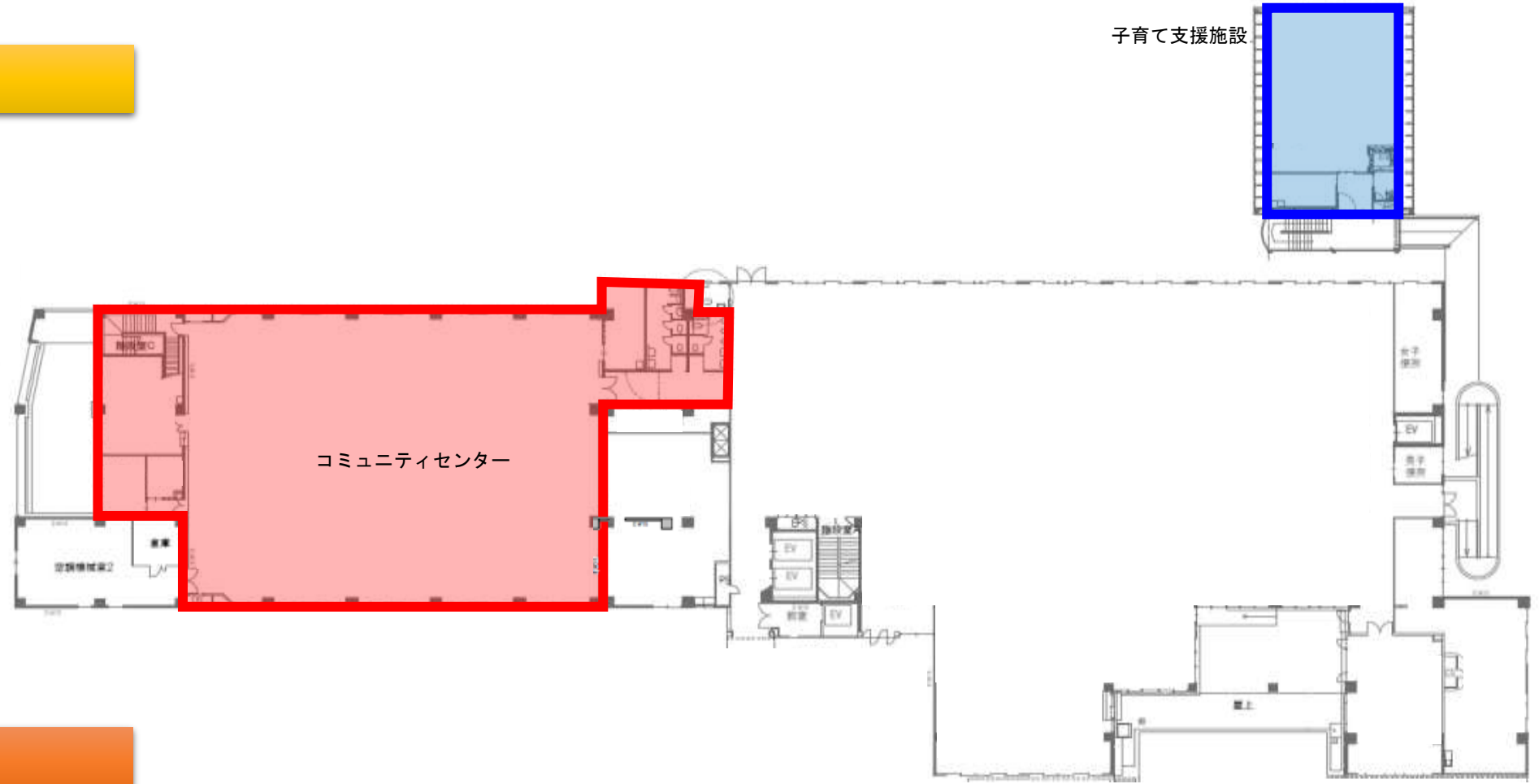
(4) 対応案

以下の理由により、子育て支援施設については、北館別館からコミュニティセンター横に配置を変更することとし、北館別館については、安佐准看護学院の図書室として活用することとする。

- 子育て支援施設をコミュニティセンター横に配置することにより、コミュニティセンターとの有機的な活用が可能となり、運営面やPR面においてプラス効果が期待できること。
- 現在も安佐市民病院の図書棟として使用されている北館別館を安佐准看護学院の図書室として活用することにより、大掛かりな補強工事がなくなり、約4,000万円の経費節減に資すること。

当初計画

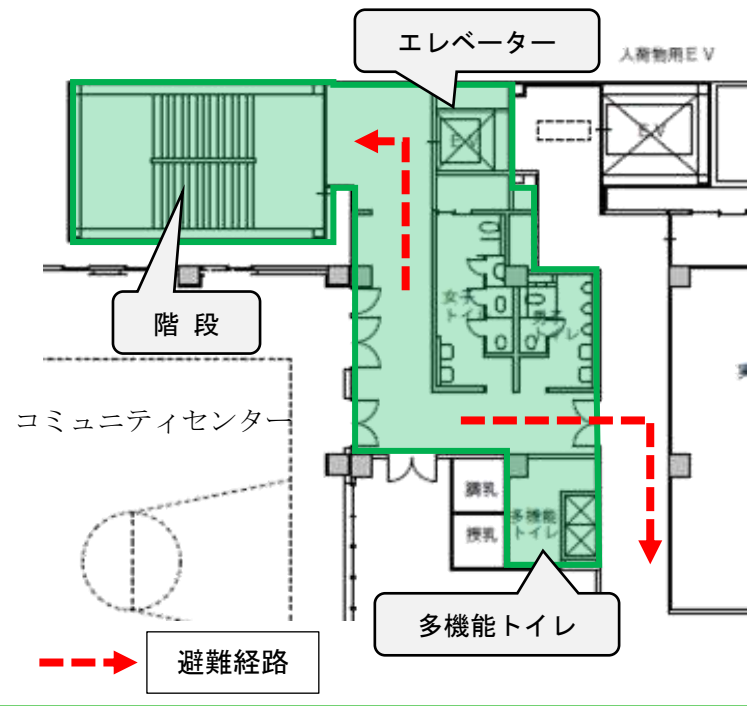
| 施設 | 面積 |
|------------|------------------------|
| コミュニティセンター | 約 800 m ² |
| 子育て支援施設 | 約 285 m ² |
| 合計 | 約 1,085 m ² |



変更案

【共用部拡大図】

- ① 建築基準法に基づき、避難路にもなる2か所以上の出入口を確保
- ② 高齢者、身体障害者等が円滑に利用できるようエレベーター及び多機能トイレを整備



| 施設 | 面積(※) |
|------------|------------------------|
| コミュニティセンター | 約 904 m ² |
| 子育て支援施設 | 約 230 m ² |
| 合計 | 約 1,134 m ² |

※トイレ、エレベーター等の共用部分について両施設の面積に応じて按分した面積

